

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

6:20 さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。
「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。 6:21 今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、／あなたがたは笑うようになる。 6:22 人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。 6:23 その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。 6:24 しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、／あなたがたはもう慰めを受けている。 6:25 今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、／あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、／あなたがたは悲しみ泣くようになる。 6:26 すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

ルカによる福音書6:20-26

【説教要旨】今、泣いている人々は幸いである

時代の大きな変化の中で、ますます弱者にしわ寄せをさらに強くしています。生活が脅かされているという実態があります。いったい、私は何をしているのか問われ続けられました。

イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびたしい民衆が、ユダヤ全土と

エルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。とイエスさまの周りに起きていた出来事が、医者であるルカの周りには多くの病人が寄って来たに違いありません。医者でしたが、彼はイエスではありません。医術の限界の中で多くの人を癒すことの出来ない現実にあふつき、さらに病人たちの貧困に直面したに違いありません。

ルカによる福音書は、弱者へ語りかける福音書と言われています。キリストの降誕は、まず社会の底辺にいた羊飼いに告げられ、ザアカイ、放蕩息子の話、よきサマリア人の話などルカによる福音書だけにある物語で、登場人物は、弱者です。

マタイが「心の貧しい人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである。5:3」とあるところをルカは、「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。」と記します。「心の貧しい人々」という精神的な表現でなく、ずばり、直球に「貧しい人々」、社会的、経済的に貧しい人々と表現します。また、「その人たち」と一般化されているのではなく、「あなたがた」と表現し、直接的に臨場感をもって呼びかけるのです。しかし、ルカにしても、ルカの周りに集った人々も比較的裕福な人でした。しかし、ルカの周りの人々はユダヤ社会から排除された異邦人であったということです。どんなに律法を守ろうと豊かになろうと救いの外にいた人々でした。だからよきサマリア人、ザアカイ、放蕩息子の話など救いの外にいた人々のことを記したのです。差別された者の周りに社会的貧困に喘ぐ人々が集まってきたのです。

そして、ルカの周りに集まった人々は、社会的貧困に喘ぐ人々に目を閉じるのではなく、無関心になるのではなく、彼らに寄り添おうとするのです。

では、イエスさまはどう私たちに語りかけてくださったか。ルカは、第三者的でなく、「あなたがた」と呼びかけられたイエスさまを思い出すのです。さらに、マタイは「山上の垂訓」と言われるのに

対して、「イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。6:17」と、「平地の説教」と言われ、イエスさまは、山から下ってとあるように私たちのところまで下ってこられ、視線を低くしてくださっていたことをルカは忘れなかったのです。

私たちの日本の教会は、ルカの集いに集まった人々に似ていませんか。キリスト者は少数であり、比較的裕福で、そして、私たちの周りには多くの人が救いを求めてきています。しかし、自分を守ることに汲々としているのも私たちの現実です。私たちのところに誰が来られているのでしょうか。「イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった」と、山から下りてとあるように私たちの所まで下ってこられ、視線を低くしてくださっているイエスさまがおられます。そして、あなたを支えていると思って握りしめているものを離してごらんと語り給うイエスさまは、「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。」と勧めます。貧しさはある。しかし貧しさを超える「神の国」、神の愛の支配があなたがたのものであるということです。山から下ってとあるように私たちの所まで下って来られ、視線を低くして下さっているイエスさまがあなたがた、私たちの所におられます。

確かに私たちは、現実の中で何が出来るか、何をしているのだろうかという問いの大きな壁があります。しかし、私たちはルカの周りに集まった人々のように主の臨在を信じ、社会的弱い人に無関心にならず、主が下って寄り添ってくださったように自己保存的にならず寄り添っていけるように主に祈りましょう。

「今日、イエスの穏やかで無防備な愛が、弟子の心によみがえります。わたしたちもまた使徒トマスのように、世の救いである憐みを受け入れようではありませんか。そして、もっと脆弱な者に対して、あわれみを示しましょう。そうすることで初めて、新しい世界を築けるようになるのです。」(フランシスコ教皇)

私たちが生きるに汲々していても、世の救いである憐みを受け入れ、救いの力に委ねて、もっと脆弱な者に対して、あわれみを示し、新しい世界を築けるように、たとえ明日が終わりであっても今

日、隣人に寄り添い、なすべきことをなせるように強く主に祈っていく一人一人の集まりでありますように。

牧師室の小窓からのぞいてみると



現代、社会の構造が大きく変わっていつている。久留米市も人口減少を止められず、30万人を切った。その原因の一つが、少子化です少子化は予想以上に進み、人口減少を止めることは出来ず、社会のインフラを壊して、社会構造を大きく変えていつている。それは、町に住み難くなる、極端に言えば、住めなくなるということである。今までは高齢化による限界集落ということが課題である一方、少子化ということで、「住めない地域」が増えるということである。

ヨーロッパは、ペストの後中世から近世に時代の大きな変化をしたように、コロナ以降、社会が大きく変化しているのだが、では、今を、今後をどう生きるか私たちは知りたい。それを提供するのが教会の神学ではないか。もっと、神学者は語るべきである。

園長・瞑想？ 迷走記



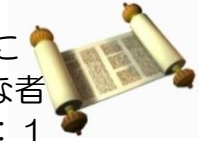
雪が少し散らつく寒い中を凧あげに園児は出かけていった。寒くて手も凍えそうな体験をしたようである。雪合戦の時もそうだが、部屋に入る時に、お湯を用意する。「園長先生、今から公園を出ます。温かいお湯を用意してください」と電話がある。到着時お湯を用意する。子どもたちの入ったバケツに手を入れた。至福の時となった。寒さを体験したからこそ、この温かい至福の時を得たと思う。



こういう自然の体験を通して、色々と感じていつて欲しいと思う。そしてこの体験が経験化し豊かな感受性を養ってほしい。

日毎の糧

1:1 いかにかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに
従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者
と共に座らず
詩篇 1：1



「ルターの言葉から」

最後には悪は消え去るのであろう。この詩編の終わりもまた、このように歌っている。「神に従う人の道を主は知っていてくださっている。神に逆らう者の道は滅びに至る。」

『慰めと励ましの言葉 マルティン・ルターによる一日一生』湯川郁子訳 徳善義和監修 教文館

座さず

知恵文学に属する詩篇も「「主を畏れることは、知恵のはじめ」と言われています。知恵は、万物に先立って存在し、神のもとにあって、創造のみわざに参与しました。知恵に従うことは、律法に従って生きることと同義語に用いられています。」とあるように、詩篇 1 篇はその特徴がでています。神に逆らわない正しい者、神に逆らう悪しき者、罪人に分けられ、律法に従って生きるかどうか両者は分かれると讃美します。

「いかにかに幸いなことか」という言葉から始まる。これは、イエス・キリストの山上の垂訓を思い出す。

幸いとは知恵に従うことは、律法に従って生きることである。「『歩む』『立ち止まる』『座る』という動詞は悪人と道連れとなり、彼らと共にその道に立ち止まり、遂には彼らの座に腰を降ろしてしまう。そのような動作の変化がそこに暗示されているのであって、始めは行きずりであった者が終わりには悪人、罪人、嘲る者に仲間入りをするを指している」（「詩篇」浅野順一 岩波新書）

正しい者はこのような行動をとらないという。

祈り：主よ、助けてください。私たちがいつもあなたの座にもどるようにわたしたちを促してください。アーメン

甘木通信

「なにごとのおわしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼる」と伊勢神宮に平安時代の歌人西行法師が詠んだ歌です。「どんな方がおられるか知らないけどただ有難くて涙がこぼれる」という意味で、日本人の宗教の感性についてよく引用される歌である。私は、教会もまたそうだと思う。どんな教会でもこの感性を呼び起こすように努めなければならないと思っている。

「東京のカトリック教会を訪ねて・・素晴らしき出会い」（ペーター・パウロ・バロン著、聖母文庫）という本で日本最初の教会の一つ築地の教会について書いている。

「・・良く眺めると、一つひとつの細部まで、愛がこめられ、祈られ、信仰され、尊敬されているのを発見します」。キリスト教流にいうと「かたじけなさ」とは

「愛がこめられ、祈られ、信仰され、尊敬されている」ということではないでしょうか。

甘木教会の総会の前に100年、90年史を読んでいると信徒皆での教会堂への改修作業はまさに「良く眺めると、一つひとつの細部まで、愛がこめられ、祈られ、信仰され、尊敬されているのを発見します」ということではないだろうか。なにごとのおわしますかは知らねどもかたじけなさに涙こぼるる



礼拝堂外壁の塗装（〇6年）

基礎床工事（〇7年）

(甘木日記)土)いつものように甘木教会へ。いつものように掃除をしていると真向いの娘さんから沖縄土産をいただく。総会のために豚汁を家内が作っている。豚と牛を間違ふ。日)礼拝後、総会。久しぶりに主任牧師も出席される。月)「認定こども園」の研修。学び深く身が引き締まる。火)休日。久しぶりに離れて寄席に行く。水)早朝便で帰宅。葬儀出席のために着替えて幼稚園に。家族の挨拶文は名文。木)年長組のデイキャンプの引率。風も強い中で子どもたちは元気に遊んでいる。これだけで良い。金)4時から主日の準備。今日もデイキャンプの引率。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) いつもよりゆっくりと思うが目が覚める。朝食を済ませ机の中の整理。すると立て続けに電話。終わるとやっとなかなか手につかなかった確定申告の資料作りをしていると13時。甘木へ。明日のためと掃除をしていると向かいの方から沖縄土産をいただく。総会の豚汁を作ろうと教会の台所に行くと家内が作ってくれている。



日) 霜が降っている。昨夜、痛いほどの寒さだったわけ。



月) 研修会のために5時15分のバスで飛行場に向かう。10時にドンボスコに向かい卒園生のためにT十字架を購入。11時開始。17:30まで。

幼稚園を囲む環境は厳しくことを今更再確認をする。ではどうするか。懇親会で悩む園長らと話をする。久しぶりに〇牧師と会う。日本の古い教会の歴史を話す。カード会社との連絡が出来ずコンピューター会社に務めるN君に助けを求めらう。また canver の使い方を (雲海の日の出)



教わる。今の時代、私は役立たずと思われ知らされる。火) 休日。久しぶりにこころのフレッシュに寄席に行く。0時から終わりの20時まで。そこで気付いたのは若い人が多いという事である。そこで、ここには似つかわしくないようなハンサムな青年も始めから最後までいた。少し話しをする。「誰が落語家では好き」と聞くと



「今度、好きな一之輔さんの独演会に行きます。」若者は私たちと違うことを感じここにいるのだろうか。それにしても足が痛い。水) 一番の飛行機に乗って帰宅。幼稚園生のお祖父さんの葬儀に出席のため(飛行場での日の出)に着替えて、教会で行われる葬儀に出席といえども同じ敷地内で、いろいろと気を遣う。幼稚園とも関わってくださり感謝の思いで祈る。古い大きな冠婚葬祭会社の会長で、親族が読まれた個人の銘文「葬儀は死をつかさどるのでなく、命へと繋ぐことだ」という内容の文に感動を覚えた。同級生のk牧師も来られていた。「やっと公職から解放された」と。また元園長も来られていて挨拶が出来た。命を引き合わせてくださった。木) 年長のデーキャンプ引率。そろそろ体が追いつかなくなっている。足の痛みで寝られず。金) 早朝起きて主日の準備をしているとスケジュールがダブっていることに気づく。頭も追いつかない。笑い飛ばす。